

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題1

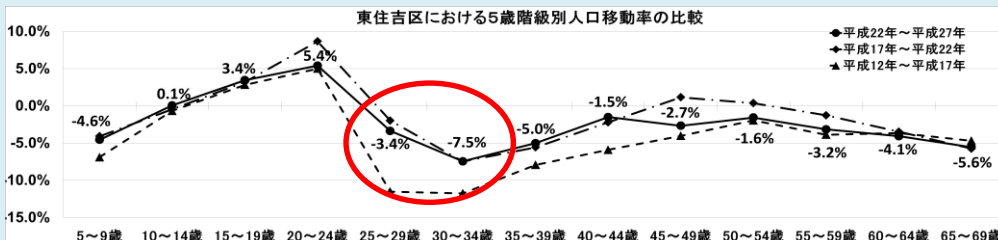
【子育て層が住みたい、住み続けたいと思うまちづくりの推進】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間を念頭に設定＞

- ・子育て層が安心して子育てができるように、子育て等に関する知りたい情報を知る環境を整え、子育ての関係機関等と連携を深め、育ちやすい、育てやすいまちとして、東住吉区に住みたい、住み続けたい子育て層が増える。
- ・地域から孤立するなど子育てのしづらさを感じている養護者を減らし、前向きな子育てができる養護者を増やす。養護者が安心して楽しく子育てができ、子どもたちも健康ですくすくと育てられる東住吉区をめざす。あわせて虐待に至る事例を減少させ、虐待を起さない環境づくりを進める。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

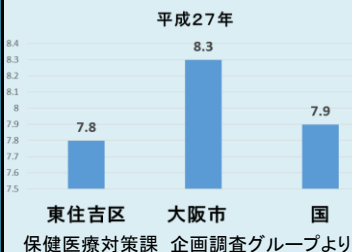
- ・子育て層の人口（25歳～44歳）※ 《出典：H22,H27年国勢調査》 ※総務省の統計を参考に、子育て層を25歳～44歳と想定。
 大阪市 H22 795,617人→H27 766,580人（増減数 ▲28,587人、3.6%の減）
 東住吉区 H22 34,397人→H27 30,351人（増減数 ▲4,046人、11.8%の減）
- ・高齢者人口割合が年々高まっているが、10年間減少し続けていた生産年齢人口が下げ止まっている。《出典：平成29年10月1日現在推計人口年報》



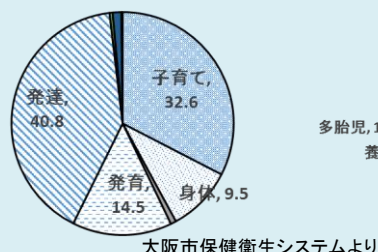
- ・東住吉区が魅力のあるまちだと思うか。(H29第3回区民アンケート) (25～44歳の率、()内は全体の率)
 思う 23.3%(24.2%) どちらかといえば思う 55.8%(50.3%) 否定的評価 20.8%(23.5%)
- ・乳幼児健診での追跡要因の3割は、「子育て・養育」の問題があり、その内訳は、子どもの問題行動や養護者自身の問題により子育てのしづらさを訴える「育児不安」、養護者の「養育精神」53.4%、養護者からの「虐待・その疑い」「養育態度(ネグレクト疑い含)」18.9%とで、「子育て・養育」問題の約7割を占めており、子育てのしづらさから子育てが楽しくないと感じる養護者が少なくない。

計画

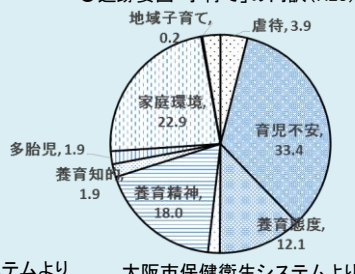
●出生率の比較(H27)



●乳幼児健診での追跡要因(H28)



●追跡要因「子育て」の内訳(H28)



要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

- ・東住吉区における子育て層の人口は減少から増加に転じたが、大阪市全体の増加率に比べ低い傾向にある。区民アンケートによる住みやすさや魅力の評価においてもその結果が現れていることから、子育て層にとって「住みたい、住み続けたいまち」として魅力の発信が不足していることが要因の一つと考えられる。
- ・東住吉区では子育て層が安心して楽しく子育てできる環境をめざしているが、虐待に至る前に子育てのしづらさや発達障がい(疑い)がある親子が早期発見され、早期に療育が受け入れられる仕組みや支援してもらえる社会資源等の連携体制や整備が十分整っていないことが要因と考えられる。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

- ・他区にはない区独自施策を展開し、積極的に対内外に情報発信することで、東住吉区が「子育て環境抜群」であることをPRする。
- ・子育て層にとって東住吉区が「住みたい、住み続けたいまち」になるための課題等を的確に把握し、対策を講じる必要がある。
- ・乳幼児の子どもを抱える子育て家庭や子育てに不安や負担を感じている人が孤立しないように、子育てのしづらさや発達障がい(疑い)がある親子を早期発見し、早期に療育が受け入れられる仕組みづくりを、地域の関係機関や事業所と連携しながら実施できるようにするなど、状況に応じた適切な支援・相談・情報提供を行い、子育てに対し不安や負担の軽減を図る。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

評価

めざす成果及び戦略 1-1 【東住吉ゆめ応援プロジェクトの充実】

計画	めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定>		戦略（中期的な取組の方向性）	
	・東住吉区に住みたい、住み続けたいと思う子育て層の区民が増える。 ・「東住吉区に住みたい、住み続けたい」と思う子育て層（25歳～44歳）の区民の割合：令和2年度に90%以上 ・効果的な施策・事業や魅力的なイベント等があると感じる区民の割合：令和2年度に60%以上		・区内の地域資源（大学や商店街、企業等）と連携しながら、子育て層にとって関心の高い分野に特化した施策を区独自に展開する。	
中期評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体		
			今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須	
			A：順調 B：順調でない	
戦略の進捗状況		a：順調 b：順調でない		

具体的取組 1-1-1 【小学生英語交流の推進】

		29決算額	3,665千円	30予算額	3,670千円	元予算額	3,970千円
計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）				
	・区内在住の小学5,6年生25名を対象に6～9月にかけてサマー・イングリッシュ・キャンプ等を、11月～2月にかけて区内在住の小学3,4年生20名を対象に地域資源（商店街・大学等）と連携したイングリッシュ・スタディ・ツアーを実施し、英語力及び地域力を高める機会を提供。		①外国語及び外国人に対する興味や関心が参加前より高まった参加小学生が80%以上 ②自分の住んでいるまちや地域に対する興味や関心が参加前より高まった参加小学生が80%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標がいずれも50%を下回った場合は、事業を再構築する。 前年度までの実績 H29:小学5,6年生 26名 小学3,4年生 28名応募 H30:小学5,6年生 24名 小学3,4年生 27名応募				
中期振り返り	プロセス指標の達成状況	①(i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	戦略に対する取組の有効性	ア	①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成 ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す 一：プロセス指標未設定(未測定)				
中期評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成		ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す 一：プロセス指標未設定(未測定)				

具体的取組 1-1-2

【中学生海外派遣の推進】

29決算額 5,141千円 30予算額 5,141千円 元予算額 5,396千円

計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）
	区内在住の中学生7名を対象に、夏休み等の期間を利用して、ホームステイやボランティア活動などの海外留学体験（約3週間）を通じて、地域への愛着を高めるとともに、グローバル感覚を養う機会を提供。		①派遣事業終了後もグローバル感覚を養い続けるため、新たな海外留学等により海外と関わり続けたいと思う派遣中学生全員 ②自分の住んでいるまちや地域に対する興味や関心が参加前より高まった派遣中学生全員 ③9月の発表会で「中学生の発表を聞いてよかった」と思う傍聴者の割合80%以上 【撤退・再構築基準】 ①②の目標がいずれも半数を下回った場合及び③の目標が50%以下の場合、事業を再構築する。
			前年度までの実績 H25:42名応募、H26:53名応募、H27:40名応募、H28:45名応募 H29:34名応募 H30:47名
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	①(i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	-	
評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	-	

めざす成果及び戦略 1-2 【子育て・教育支援の充実】

計画	めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定>		戦略（中期的な取組の方向性）									
	<ul style="list-style-type: none"> 地域の関係機関や事業所と連携した取り組みを進め、子育てのしづらさを解消、前向きに子育てができる養護者を増やし、地域での子育てに孤立した親子と児童虐待に至る事例を減少させる。 学校と連携して、子どもたちが力を発揮し円滑に学校生活を送れるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> 区内の子育て支援関係機関等と協働して、同世代や異世代間の交流を支援し子育てを応援するとともに、子育てにかかる情報提供が子育て層に行き届くようにする。 子育てのしづらさや発達障がい（疑い）がある親子を早期発見し、早期に療育が受け入れられる仕組み、子育てや親育ちが支援できるような「場」を構築すると共に、子育て相談にも対応し、育児支援を強化する。 発達障がい等のある児童生徒の行動面への支援や基礎学力の向上など各学校の課題に応じた教育活動を支援する。 									
中期評価	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須									
	<ul style="list-style-type: none"> 子育てや育児に不安や育てにくさを感じている子育て層の割合：令和2年度に25%以下 		<table border="1"> <tr> <td>戦略のアウトカム指標に対する有効性</td> <td>ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す</td> </tr> <tr> <td>アウトカム指標の達成状況</td> <td>前年度 個別 全体</td> </tr> <tr> <td colspan="2">A：順調 B：順調でない</td> </tr> <tr> <td>戦略の進捗状況</td> <td>a：順調 b：順調でない</td> </tr> </table>		戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体	A：順調 B：順調でない		戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない
	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す										
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体										
A：順調 B：順調でない												
戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない											
		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須										

具体的取組 1-2-1 【子育て支援の推進】

		29決算額	12,119千円	30予算額	11,856千円	元予算額	15,007千円
計画	当年度の取組内容			プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）			
	<ul style="list-style-type: none"> 東住吉区子育て支援連絡会との協働による子育て施策の展開及び情報提供を行う。 東住吉区子育てOHえんフェスタの開催（年1回） 東住吉区子育てファミリー運動会（年1回） 赤ちゃんも一緒クラシックコンサート（年2回） OHえん情報誌の作成・配布（毎月） 保存版の作成年間 約1,500部 区内幼稚園・保育園・保育所・認定こども園・小規模保育施設・小学校の職員との学習会 乳幼児健診時に子育てOHえん情報誌保存版の配布や区社協配信のOHえんメールの周知などタイムリーな情報提供を行い、サービスの利用を促進。 子育て相談・訪問によるサービス 利用者支援専門員等による保育所資源やサービスの利用に関する相談・情報提供の拡充 3名の家庭児童相談員による養育者への相談体制の充実と虐待の予防と早期発見のための取組の強化 家庭での保育が一時的に困難になった乳幼児に対する、保育所等の実施施設における日中一時預かり（3ヶ所） 地域親子サロンを活用した地域妊産婦教室の開催 			<ul style="list-style-type: none"> 東住吉区子育てOHえんフェスタやファミリー運動会、赤ちゃんコンサート（年2回）の開催時に実施するアンケート調査による満足度：85%以上 <p>【撤退・再構築基準】 上記目標が50%を下回った場合は、事業を再構築する。</p> <p>前年度までの実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 東住吉区子育てOHえんフェスタの参加者 H29年（7回目） 約800人 H30年（8回目） 約870人 赤ちゃんも一緒クラシックコンサート（2回） 子育てOHえん情報誌の配架 約100か所（主要8駅含む） 毎月約3,000部 （昨年より約400部増刷） 区広報誌の増ページで子育てマップ年1回発行（H30年8月） 家庭児童相談員3名による相談体制 一時預かり（3ヶ所） 地域親子サロンを活用した地域妊産婦教室への参加数 平成29年度328人（年間27回実施、平成28年度425人） 			
中期振り返り	プロセス指標の達成状況		①(i)				
	<ul style="list-style-type: none"> ①：目標達成（見込）(i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）(i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成 		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
中期評価	戦略に対する取組の有効性		ア				
			ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す 一：プロセス指標未設定（未測定）				
	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
		<ul style="list-style-type: none"> ①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成 					
戦略に対する取組の有効性		ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す 一：プロセス指標未設定（未測定）					

具体的取組1-2-2 【子どもの居場所にかかる支援の推進】

		29決算額	一千円	30予算額	2,866千円	元予算額	2,920千円
計画	当年度の取組内容			プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）			
	子どもの居場所ネットワーク事業において、以下の取組を実施する ・子どもの居場所の運営団体等のネットワークの構築 居場所運営者・関係機関の連絡会開催 区役所内プロジェクトチーム会議開催 ・居場所運営者へのヒアリング実施により、活動状況・課題について整理 ・居場所運営者（開設予定者含む）に向けた運営・開設マニュアルの作成 ・事業実施にかかる運営指針の策定 ・居場所活動の実施か所数の拡充を支援			子どもの居場所ネットワーク事業により「新たにつながりが出来た」または「相互情報交換の場ができた」と感じる子どもの居場所活動の運営者・支援者の割合 60%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が30%未満であれば手法を再検討する			
中間振り返り	プロセス指標の達成状況			①(i)			
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成			課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
中間評価	戦略に対する取組の有効性			ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)			
	当年度の取組実績			課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
中間評価	プロセス指標の達成状況			改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成			戦略に対する取組の有効性 ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)			

具体的取組1-2-3 【子育てケアアップを応援する支援の推進】

		29決算額	5,445千円	30予算額	4,878千円	元予算額	4,903千円
計画	当年度の取組内容			プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）			
	○子育てケアアップ「キャッチ&フォロー」の推進 ≪早期発見≫ ・発達障がい(疑い)等子育てのしづらさを持つ親子を、1歳6か月児健診、3歳児健診(いずれも16回/年)、心理相談(12回/年)等で選定。 ≪早期療育≫ ・子どもとの遊び方を学ぶ「すくすく教室」の実施(12回/年) ・子育てのコツを学ぶ「親育てのプログラム(2歳児用・4.5歳児用)」を実施(年間6クール) ・友達づくりや子育ての悩みなどを共有できる「交流の場」の構築及び地域で孤立しない相談対応の実施(2回/年) ・平日に参加しづらい保護者を対象に、土日に単発のパパセミナー、ママセミナーを年2回実施。 * 早期療育が受け入れられる仕組みとしての取組は、委託事業者と連携し実施(「すくすく教室」以外) ・子育てケアアップ講座受講修了者による企画、自主的な取組活動の側面支援。 ○臨床心理士等による乳幼児期の発達相談・支援体制の充実			①「すくすく教室」参加者から「親育てのプログラム」(2歳児)への参加率 60% ②親育てのプログラムの満足度: 80%以上 ③交流の場の参加者満足度: 80%以上 【撤退・再構築基準】 ①及び②の満足度が50%以下の場合かつ、③の参加率が40%を下回る場合は、再構築する			
中間振り返り	プロセス指標の達成状況			①(i)			
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成			課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
中間評価	戦略に対する取組の有効性			ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)			
	当年度の取組実績			課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
中間評価	プロセス指標の達成状況			改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成			前年度までの実績 ○子育てケアアップ「キャッチ&フォロー」の推進 ・すくすく教室 12回実施(4月~3月) 参加者数: 平均14組/月 ・すくすく教室からプログラムへの参加率 65.6% ・親育てのプログラム(29年度実績) 2歳児 参加数: 延べ150人(4・5・8・9・12・1月) 参加満足度: 100% 4.5歳児 参加数: 延べ30人(6・10月) 参加満足度: 100% ・交流の場: 42組参加(7・11・2月)満足度100% ○臨床心理士等による乳幼児期の発達相談・支援体制の充実			

具体的取組 1-2-4

【ニーズに応じた学校への支援】

29決算額 10,101千円 30予算額 9,616千円 元予算額 9,940千円

計画	当年度の取組内容		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)
	・各学校と連携し、子どもや保護者にとって魅力ある学校づくりに向けた取組等(学校選択制など)をサポート、発信。 ・発達障がい精通した障がい児童支援員が、学校を通じて、発達障がい児やその保護者等に対するサポートを年間通して実施(4~3月)。 ・学校生活において多種多様な支援が必要な児童生徒へのサポートや、民間講師等を活用した学習支援等を実施。(4~3月)		サポーターや民間講師等を活用した学習支援等により子どもの学習支援に繋がったと感じる学校の割合 60%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が30%を下回る場合、事業を再構築する。
計画	プロセス指標の達成状況 ①(i)		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成		
計画	戦略に対する取組の有効性	-	
計画	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
計画	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	-	

めざす成果及び戦略 1-3 【子育て層が創るまちづくり活動への支援】

計画	めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定>		戦略（中期的な取組の方向性）	
	子育て層の区民が区政への関心を高め、主体的に区政運営に参画している。 アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） ・区役所の情報が伝わりやすくなったと感じる区民の割合：令和2年度に60%以上		・子育て層の区民にとって知りたい情報を容易に知ることができる環境にするため、SNSをフル活用して、子育て層に必要な情報を届ける。 ・子育て層にとって東住吉区が「住みたい、住み続けたいまち」になるための課題等を的確に把握し、子育て層の区民との協働による区政運営を実現する。	
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況		前年度	個別 全体
			A: 順調 B: 順調でない	
戦略の進捗状況			今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須	
		a: 順調 b: 順調でない		

具体的取組 1-3-1 【区の広報媒体及び内容の充実】

29決算額 15,809千円 | 30予算額 16,329千円 | 元予算額 20,673千円

計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て層が見たいと思う情報の発信強化を目指した、区広報紙のリニューアル ・広報紙を手に取りやすい配架場所の新規開拓（5箇所以上） ・子育て層に向けた情報発信サイト「LINE」の登録者数の増加 ・区広報紙やホームページと、区の公式SNS（LINE、facebook、instagramなど）を連携させ、相互の情報をクロスメディア手法により効果的に発信（各媒体から相互に情報を利用することが可能） ・広報板の効果的な活用 		①区広報紙がリニューアルされ、区政に対し関心が高まったと感じる割合：60% ②子育て層が、広報紙が読みやすくなったと感じる割合：40% 【撤退・再構築基準】 ①が30%及び②が20%をともに下回った場合は、事業を再構築する。	
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		①(i)	
	①：目標達成（見込）(i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）(i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	戦略に対する取組の有効性		-	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	プロセス指標の達成状況			
			改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
戦略に対する取組の有効性			ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）	

具体的取組 1-3-2 【アンケートの充実】

		29決算額	3,773千円	30予算額	2,100千円	元予算額	1,967千円
計画	当年度の取組内容			プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）			
	<ul style="list-style-type: none"> 無作為抽出した区民1,500名に対するアンケート調査の実施（3回のうち1回は子育て層向けアンケート（1,800名を対象）として実施、市民局実施分以外はWEBでの回答も可） オンラインアンケートの活用 			<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査の有効回収数 1回あたり 400名以上 【撤退・再構築基準】 有効回収数がすべての回で300名を下回る場合は、事業を再構築する。 			
中間振り返り	プロセス指標の達成状況			①(i)			
	<ul style="list-style-type: none"> ①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成 			課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	戦略に対する取組の有効性		-	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)			
自己評価	当年度の取組実績			課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	プロセス指標の達成状況			改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	<ul style="list-style-type: none"> ①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成 			ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)			

具体的取組 1-3-3 【区民等の参画と協働による区政運営】

		29決算額	1362千円	30予算額	575千円	元予算額	599千円
計画	当年度の取組内容			プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）			
	<ul style="list-style-type: none"> 区政会議の開催(本会議 3回、子育て教育部会及び安心つながり部会各2回) 広報媒体を活用した区政会議の意義や議事内容の区民への周知 新・東住吉区将来ビジョンの実現に向けた、区民が主役となるまちづくりプロジェクト(e-sumiなでしこ)のサポート(月1回) 大阪城南女子短期大学との包括連携会議(1回) 大学や企業等と連携した取組の促進 			<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトに参加した区民等の中で、区民が主体的に企画に取り組み、区役所は適切にサポートしてくれていると感じる参加者の割合: 60%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が30%を下回った場合、事業を再構築する。 			
中間振り返り	プロセス指標の達成状況			①(i)			
	<ul style="list-style-type: none"> ①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成 			課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	戦略に対する取組の有効性		-	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)			
自己評価	当年度の取組実績			課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	プロセス指標の達成状況			改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	<ul style="list-style-type: none"> ①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成 			ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)			

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題2	【誰もが安心して心豊かに暮らせるまちづくりの推進】																												
めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年を念頭に設定＞																													
<p>・大規模な自然災害発生時に、区民が防災の正しい知識に基づく備えを実践し自らの身を守り、地域住民が自ら救出救護・初期消火・避難行動要支援者の避難誘導・避難所開設などを行えるとともに、区役所が区災害対策本部としての機能を十分発揮し、地域や避難所との連携をスムーズに行うことで、被害を最小限にするまちなる。</p> <p>・誰もが健康的で安心して心豊かに暮らしていけるように、地域のあらゆる力を集めて、あたたかなつながりがあり、誰もが「しあわせに」暮らせる、住みよいまちなる。</p>																													
現状（課題設定の根拠となる現状・データ）																													
<p>【防災】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自助・共助ともに意味を理解している区民の割合 61.9% ・学校・各種団体等と連携して防災訓練等に取り組んでいる地域 14地域中：8地域 ・地域防災リーダーの平均年齢 63.7歳 ・地域防災リーダーの女性割合 20.8% ・有事の際の役割を認識している職員の割合 99.6% <p>【防犯】・東住吉区内における犯罪発生件数（大阪重点犯罪）</p>	<p>「平成29年度第2回区民アンケート」結果</p> <table border="1"> <tr><td>「自助」「共助」ともに理解している</td><td>61.9%</td></tr> <tr><td>「自助」は理解している</td><td>19.4%</td></tr> <tr><td>「共助」は理解している</td><td>2.7%</td></tr> <tr><td>災害に対し、なにか備えをしている</td><td>70.7%</td></tr> <tr><td>水や食料などを備蓄している</td><td>35.6%</td></tr> <tr><td>非常持ち出し品を用意している</td><td>42.7%</td></tr> <tr><td>家具等を固定している</td><td>16.0%</td></tr> <tr><td>災害時の連絡方法等を確認している</td><td>29.1%</td></tr> </table>	「自助」「共助」ともに理解している	61.9%	「自助」は理解している	19.4%	「共助」は理解している	2.7%	災害に対し、なにか備えをしている	70.7%	水や食料などを備蓄している	35.6%	非常持ち出し品を用意している	42.7%	家具等を固定している	16.0%	災害時の連絡方法等を確認している	29.1%												
「自助」「共助」ともに理解している	61.9%																												
「自助」は理解している	19.4%																												
「共助」は理解している	2.7%																												
災害に対し、なにか備えをしている	70.7%																												
水や食料などを備蓄している	35.6%																												
非常持ち出し品を用意している	42.7%																												
家具等を固定している	16.0%																												
災害時の連絡方法等を確認している	29.1%																												
大阪重点犯罪																													
街頭犯罪																													
ひったくり・路上強盗																													
自動車関連犯罪																													
特殊詐欺																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>ひったくり</th> <th>路上強盗</th> <th>自動車盗</th> <th>車上ねらい</th> <th>部品ねらい</th> <th>特殊詐欺</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成28年</td> <td>18件</td> <td>5件</td> <td>45件</td> <td>451件</td> <td>182件</td> <td>23件</td> </tr> <tr> <td>平成29年</td> <td>17件</td> <td>0件</td> <td>29件</td> <td>238件</td> <td>98件</td> <td>24件</td> </tr> <tr> <td>平成30年 (7月末現在)</td> <td>10件</td> <td>1件</td> <td>28件</td> <td>142件</td> <td>71件</td> <td>13件</td> </tr> </tbody> </table>			ひったくり	路上強盗	自動車盗	車上ねらい	部品ねらい	特殊詐欺	平成28年	18件	5件	45件	451件	182件	23件	平成29年	17件	0件	29件	238件	98件	24件	平成30年 (7月末現在)	10件	1件	28件	142件	71件	13件
	ひったくり	路上強盗	自動車盗	車上ねらい	部品ねらい	特殊詐欺																							
平成28年	18件	5件	45件	451件	182件	23件																							
平成29年	17件	0件	29件	238件	98件	24件																							
平成30年 (7月末現在)	10件	1件	28件	142件	71件	13件																							
<p>【空家】・区内の空家率23.8%（24区中1位）、区内の空家数18,510戸（24区中4位）（平成25年住宅・土地統計調査）</p> <p>【福祉】・平成27年と平成12年の東住吉区の高齢者の人口を比較すると、前期高齢者約1.1倍、後期高齢者約1.7倍に増。平成27年と平成12年の高齢夫婦世帯数・高齢単身世帯数を比較すると高齢夫婦世帯約1.1倍、高齢単身世帯約1.5倍に増。</p> <p>【健康】・当区の死亡率（13.6）は、年々増加（24区中2位）。悪性新生物（がん）を要因とした死亡率が24区中3位。（H29）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん検診・特定健康診査の受診率が低調 【認知症】・東住吉区の高齢者、介護保険認定者（居宅）中、認知症と診断されている人（日常生活自立度Ⅱa以上）はH28年2,433人（30.0%）、H29年2,500人（31.1%）※大阪市全体ではH28年30.8%H29年31.2%である。施設入所者も含めるとH29年4,391人である。 ・地域包括支援センター・プランチの高齢者総合相談件数の内、認知症疑いありの件数は、H27年度6,129件（相談者件数の27.8%）、平成28年度8,573件（同34.7%）と増加している。 																													
計	要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）																												
<p>【防災】・自分や家族の命は自分で守ると「自助」の考えが十分に浸透していない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちのまちは自分たちで守ると「共助」の意識が十分に浸透しておらず、担い手についても高齢化し、女性の参画も十分とはいえない。 ・区災害対策本部の編成や各班の役割については認識が進んでいるが、実際の行動内容に関しては十分とはいえない。 <p>【防犯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な街頭犯罪発生件数は平成28年と比べ平成29年は大きく減少し（1293件⇒874件）、防犯モデル区指定による重点的な対策で達成した平成25年の件数（1056件）を下回る結果となった。平成28年以降は大阪府警により地域の犯罪情勢に即した犯罪抑止総合対策として重点犯罪が再設定され、近年増加している特殊詐欺が大阪重点犯罪に追加された。平成30年7月末時点において、主な街頭犯罪発生件数は前年比-8件となっているが自動車関連犯罪の合計が前年比+38件となっている。また、特殊詐欺の件数についても平成30年7月末時点において、前年比+4件となっている。 ・犯罪の発生件数は減少してきているが、犯罪の起こりにくいまちであると考えられる区民の割合は低く、区民の防犯への関心が十分に高まっていないことが考えられる。 <p>【空家】・一戸建の戸数が多いこと、高齢化率が高いことから、今後いっそう空家率・数とも増え、まちの安全安心が脅かされる危険性がある。</p> <p>【福祉】・高齢化の進行で、高齢者の中で、介護や支援を必要とする人の割合が大きくなる後期高齢者が増。家族による支援が受けにくい人や世帯が増。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外に出て活動することがなくなり、地域とのつながりが少なく、家庭内に閉じこもっている高齢者など、支援を必要としながら、社会的に孤立し、適切な支援につながらない人々が多い。 <p>【健康】・がん検診の受診率が全市平均より下回っている状況が、がんの死亡率が高い要因と考えられる。</p> <p>【認知症】・高齢者人口の15%が認知症であるとされ、東住吉区では推計値5000人以上となる。まだ1000人以上が潜在している可能性がある。認知症は早期発見・早期治療が必要な疾患であり、症状が進行すると社会的に孤立し、問題が複雑化しやすく在宅生活の継続が困難となる傾向がある。</p>																													
課題（上記要因を解消するために必要なこと）																													
<p>【防災】・自分の力で減災に繋がる行動ができるよう、全区民に対し防災意識の向上を図ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方で減災に繋がる行動ができるよう、自主防災組織の機能強化を図ること。 ・職員が災害時の役割と行動を理解できるよう職員研修、職員訓練を繰り返し実施すること。 <p>【防犯】・犯罪抑止のため、警察署、地域と連携し継続的に取り組むこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民の防犯への関心を高めること。 <p>【空家】・特定空家等の是正に向けて取組を進めるとともに、空家の利活用に向けた取組も合わせて進める必要がある。</p> <p>【福祉】・高齢化が一層進行し、高齢夫婦や高齢単身世帯が増えていることから、地域での見守りや支えあいの活動を一層推進する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的に孤立した人に対して、地域のなかで役割や居場所を見つけ、孤立状態に戻ることを防止するよう支援する取り組みも必要となっている。 ・身近なところで気兼ねなく相談でき、必要な支援に的確につながるしくみを確立していくことが求められる。 <p>【健康】・特定健康診査やがん検診の受診率向上を図り生活習慣病予防やがんの早期発見を促進し、区民自ら健康の保持増進に努めるよう意識を向上させる必要がある。</p> <p>【認知症】・高齢者自身が元気な段階から地域と関わりを持ち、認知症を予防すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症になっても地域全体で支えあえるネットワークを保健・医療・福祉・介護の各関係機関と協働して構築すること。 ・地域の見守りや気づきや情報を早期の相談・治療・介護につなぐ仕組みをつくること。 																													

自己評価	戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

めざす成果及び戦略 2-1 【東住吉区防災力の強化】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定>		戦略(中期的な取組の方向性)	
	・防災・減災対策は自分の責務でもあることを理解している区民の割合を高める。 ・全地域で自主的・自律的な防災訓練ができています。 ・区役所職員が有事の際に初期初動ができる。		・区地域防災計画や区防災マップを全区民に認知してもらい取組を進めるとともに、様々な機会において防災啓発活動を実施することで、区民全体の防災意識の向上を図る。 ・地域防災への女性や若年層の参画を促進し、地域住民の意向を反映した防災訓練の支援を行うとともに、地域に実状に応じてより実践的な避難所開設訓練や地区防災計画の策定・改訂に向けた支援等を行うことにより、自主防災組織の機能強化を図る。 ・区災害対策本部の役割を全職員に認識させる取組を進めるとともに、初期初動及び災害応急対策の中核を担う3号動員職員を重点的に養成することにより、区役所全体の防災力の強化を図る。	
自己評価	アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標)		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	・自らのことは自らで守るといふ「自助の考え方を理解している」区民の割合:令和2年度末までに70%以上 ・年1回以上、自主的・自律的な防災訓練を実施している地域:令和2年度末までに全地域(14地域) ・職員アンケートで「有事の際の役割を理解している」職員の割合:令和2年度末までに100%		ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	
	戦略のアウトカム指標に対する有効性		アウトカム指標の達成状況	
	戦略の進捗状況		前年度 個別 全体 A:順調 B:順調でない a:順調 b:順調でない	
		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須		

具体的取組 2-1-1 【家庭の防災力強化(自助)】

		29決算額	494千円	30予算額	372千円	元予算額	318千円
計画	当年度の取組内容		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)				
	区民の防災意識を向上させる取組 ・防災マップ、水害ハザードマップ等のホームページや広報紙などでの情報発信(年2回)及び様々な催し等での配布(年5回) ・防災講演会などの防災イベントの開催(年1回以上) ・各小中学校の「防災・減災教育カリキュラム」に基づく防災研修・防災訓練等の支援(20校)		災害に対して備えをしている区民の割合:80%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が50%を下回った場合は、事業を再構築する。				
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		①(i)				
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
自己評価	戦略に対する取組の有効性		-				
	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)		前年度までの実績 ・防災マップ等の広報紙での情報発信(9月・3月) ・防災イベントの開催(2月) ・小中学校における防災研修等の実施支援(13校)				
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	プロセス指標の達成状況 ①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
		戦略に対する取組の有効性		ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)			

具体的取組 2-1-2 【地域の防災力強化(共助)】

		29決算額	2,533千円	30予算額	1,242千円	元予算額	1,247千円
計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)					
	自主防災組織の機能強化を図る取組 ・地域の自主的、自律的な防災訓練の支援(14地域) ・地域防災リーダー防災学習の実施 ・地区防災計画の策定・改訂に向けた支援(14地域) ・地域防災活動への女性の参画促進に向けた支援 ・各小中学校の「防災・減災教育カリキュラム」に基づく防災研修・防災訓練等の支援(20校) ・事業所等に対する災害への備えと地域との連携の呼びかけ ・各地域で自主的、自律的に取り組まれている防災訓練等に関する情報の発信	有事の際にどのように行動すべきか理解している地域防災リーダーの割合:70%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が50%を下回った場合は、事業を再構築する。					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	①(i)					
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
自己評価	戦略に対する取組の有効性	ア	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)				
	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
自己評価	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成					
自己評価	戦略に対する取組の有効性	ア	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)				

具体的取組 2-1-3 【区役所の防災力強化(公助)】

		29決算額	579千円	30予算額	811千円	元予算額	1,722千円
計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)					
	区災害対策本部の機能強化を図る取組 ・総合防災訓練・震災総合訓練・緊急区本部員訓練・職員防災研修・直近参集者研修などにおいて、より実働的な内容を盛り込み、職員の意識を高める取組を実施(それぞれ年1回以上) ・初期初動マニュアルの3号動員職員・直近参集者への配付	非常災害時の参集基準や区災害対策本部の編成と各班の役割を理解している職員の割合:95% 【撤退・再構築基準】 上記目標が85%以下であれば、事業を再構築する。					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	①(i)					
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
自己評価	戦略に対する取組の有効性	-	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)				
	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
自己評価	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成					
自己評価	戦略に対する取組の有効性	ア	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)				

めざす成果及び戦略 2-2 【犯罪のない安心できるまちづくりの推進】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定> 犯罪がない、安全で安心して暮らせるまちになる。		戦略（中期的な取組の方向性） ・犯罪類型に応じた迅速で効果的な対策を警察署、地域と連携して継続的に取組む。 ・犯罪を未然に防ぐため、啓発活動及び情報発信を行い、区民の防犯への関心を高める。	
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） 犯罪のない安心できるまちであるとする区民の割合：令和2年度までに60%以上			
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度	個別	全体
	A：順調 B：順調でない			
	戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須

具体的取組 2-2-1 【犯罪類型に応じた対策】

		29決算額	9,452千円	30予算額	1,658千円	元予算額	1,831千円
計画	当年度の取組内容 ・ひったくり、路上強盗対策 ひったくり防止カバー取付キャンペーン(60回) ・自転車盗、車上ねらい、部品ねらい、オートバイ盗、自動車盗対策 シリンダー錠取付キャンペーン(20回) 車関連犯罪被害防止キャンペーン(12回) ・子どもをねらった犯罪対策 子ども安全講習の実施(年85回) ・振り込み詐欺対策 街頭やコンビニ等での啓発(年金支払日、年6回) 特殊詐欺犯罪発生地域への巡回(随時) ・犯罪全般への対策 青色防犯パトロールカー、自転車による巡回(随時) 広報紙(増ページ等)、ラビット通信、HP、ツイッター等による情報発信(随時)		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） 区役所が警察署、地域と連携して実施する防犯に関する取組が、犯罪抑止に役立つと考える区民の割合 80%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が50%を下回った場合は、事業を再構築する。				
			前年度までの実績 ひったくり防止カバー取付キャンペーン(60回) シリンダー錠取付キャンペーン(20回) 車関連犯罪被害防止キャンペーン(12回) 特殊詐欺犯罪発生地域への巡回(随時) 子ども安全講習の実施(年85回) 青色防犯パトロールカー、自転車による巡回(随時) 広報紙、ラビット通信、HP、ツイッター等による情報発信(随時)				
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	①(i)					
	①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
自己評価	戦略に対する取組の有効性	-		ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す -：プロセス指標未設定(未測定)			
	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成		A：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す -：プロセス指標未設定(未測定)				

めざす成果及び戦略 2-3 【魅力向上に向けたまちづくりの推進】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定> ・不安を感じる区民が減り、地域が活性化し、まちの魅力が向上する。		戦略（中期的な取組の方向性） ・エリア魅力を高めるよう、計画的に進める。 ・特定空家等の是正及び空家の適正管理や利活用の促進等を総合的に進める。	
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） ・特定空家等の解体や補修等による是正：令和2年度までに40件以上 ・空家に対する不安を感じる区民の割合：令和2年度までに平成28年度（18.4%）比で50%減 ・東住吉区に魅力を感じる区民の割合：令和2年度までに80%以上			
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度	個別	全体
	A：順調 B：順調でない			
	戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須

具体的取組 2-3-1 【地域活性化に向けた取組の推進】

		29決算額	15,837千円	30予算額	6,789千円	元予算額	1,632千円
計画	当年度の取組内容 ・現地調査や税情報等を活用した所有者の照会調査、調査により特定された所有者への電話、面会、文書等による指導を行い、特定空家等を是正 ・空き家活性化サポーター制度を活用した利活用の推進 ・矢田南部地域におけるまちづくりの取組 等 ・広報紙による都市景観資源の紹介		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） ①特定空家等の解体や補修等による是正件数 13件 ②空家に対する漠然とした不安を感じる区民の割合：前年度比10%減 ③まちの魅力を知る機会や愛着が増したと感じる区民の割合 50%以上 【撤退・再構築基準】 ①が2件、②が前年度比10%増、③が30%未満となった場合は、事業を再構築する。 前年度までの実績 特定空家等の解体や補修等による是正：55件 業績目標②29年度 10.8% ・空き家活性化サポーター制度の策定 ・事業者向け説明会の開催（H30.5） ・事業者向けまちあるきの開催（H30.6）（2回） ・所有者向け説明会の開催（H29.11） ・空き家無料相談会（H30.10月・12月） ・東住吉区矢田南部地域まちづくりビジョンの策定（平成30年6月）				
	中間振り返り	プロセス指標の達成状況	①(i)				
	①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	-	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す 一：プロセス指標未設定(未測定)		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須		
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す 一：プロセス指標未設定(未測定)					

めざす成果及び戦略 2-4 【健康で心豊かに暮らせるまちづくりの推進】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定>		戦略<中期的な取組の方向性>	
	<p>・真に支援が必要な高齢者・障がい者等「社会的援護を要する人々」に対する区民の自主的な地域福祉活動への支援を行うことにより、住民の福祉マインドを醸成しており、「住民による自律的な地域運営」ができています。</p> <p>・自分の健康は自分で守り、区民みんなが健康づくりに取組んでいる。</p> <p>・区民自ら、生活習慣改善が認知症予防に繋がること気づき、予防のため活動の習慣化と認知症等になった区民、その家族を理解でき、支援できる地域でのしくみづくりに区民と地域の関係機関と協働して取組み、健康で安心して暮らせている。</p>		<p>・多様な“困りごと”に、迅速・的確に対応していくための、「その人が話をしやすいところで相談すれば、的確な支援につながるしくみ」をつくる。</p> <p>・地域福祉のネットワークとして再構築された「地域支援システム」により、新たなニーズに対応するしくみや体制を充実することで、地域で行われている福祉活動を、専門的に支援する機能を強化する。また、地域のニーズを早期に発見し、的確な支援につないで連携して問題解決をすすめるとともに、必要に応じて新たな事業や施策を提案していくしくみを充実する。</p> <p>・すこやか大阪21(第2次後期)計画の理念のもと、区民の主体的な活動と行政、企業等が協力して、地域の特性に応じた健康づくりを推進する。</p> <p>・関係機関と連携して、生活習慣病、認知症予防に取り組む。</p> <p>・多世代交流を通して、子ども達やその保護者に高齢者や認知症について理解が深められ、地域支援のしくみづくりを行う。</p>	
自己評価	アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標)		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	<p>・身近な地域の中で、「声かけ」、「見守り」、「助け合い」、「支え合い」を実感している区民の割合：令和2年度までに60%以上</p> <p>・「はつらつ脳活性化元気アップ講座」参加者対象(令和2年度)体力の維持・増進出来た人を20%以上にする。</p> <p>認知能力の維持・増進出来た人を10%以上にする。</p>		<p>今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須</p>	
戦略のアウトカム指標に対する有効性		ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す		課題
アウトカム指標の達成状況		前年度	個別	全体
戦略の進捗状況		a:順調 b:順調でない		

具体的な取組 2-4-1 【福祉相談のためのネットワークの強化】

		29決算額	35,837千円	30予算額	46,666千円	元予算額	47,019千円
計画	当年度の取組内容		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)				
	<p>・区内14地域それぞれの会館に設置した「地域相談窓口」に地域福祉サポーターを配置し、適切な支援につなげられるよう、相談対応を実施。また、「地域相談窓口」の認知度を高めることにより、「地域の駆け込み寺」となるよう、広報媒体を活用し周知。</p> <p>・地域との関わり等を拒む孤立死リスクが高い要援護者に対して、見守り支援ネットワーク(福祉専門職)が、訪問や地域の見守り活動等へのつなぎ、ライフライン事業者等からの通報による安否確認を実施。</p> <p>・「物品等の堆積による不良な状態」を生み出している、あるいは生み出す可能性の高い人に対し、専門的知識を有するソーシャルワーカー(1名)が、福祉サービスや社会保障制度の利用相談や関係機関との連絡調整等、住居環境の健全化に向けた支援を実施。</p>		<p>あなたは、「家族・親族」以外に福祉・介護や健康に関する困りごとを相談できる人や相談先が地域にあり満足している」と感じている区民の割合:40%以上</p> <p>【撤退・再構築基準】</p> <p>上記目標の割合が20%以下であった場合、事業を再構築する。</p> <p>前年度までの実績</p> <p>地域福祉サポーターの配置(14地域)</p> <p>見守り支援ネットワーク(福祉専門職)の配置</p> <p>住居環境の健全化にむけた支援員(ソーシャルワーカー)の配置</p>				
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		①(i)				
	<p>①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>③:撤退・再構築基準未達成</p>		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
戦略に対する取組の有効性		-		ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)			
自己評価	取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須				
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須				
戦略に対する取組の有効性		-		ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)			

具体的取組2-4-2 【生活習慣病予防の推進】

		29決算額	905千円	30予算額	884千円	元予算額	886千円
計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)					
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域健康講座(329回)時に、東住吉区のがんでの死亡率、生活習慣病発生数などのデータを活用し、健診の必要性の啓発とがん予防の生活習慣病指導(禁煙指導を含む)の実施。 ・食品や環境衛生事業者(理容所等)との連携によるがん検診・特定健康診査の受診勧奨の実施。 ・食育の日(12回)、乳幼児健診(32回)、食品衛生講習会(12回)、健康展(10月)、食育フェスタ(2月)、地域健康講座(307回)開催時、がん検診・特定健康診査の受診勧奨の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健康診査の受診率が前年度を上回る。 ・区保健福祉センターで実施される大腸がん、肺がん、乳がん検診の充足率が前年度を上回る。 <p>【撤退・再構築基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定健康診査の受診率が前年度を下回った場合及び区保健福祉センターで実施される大腸がん、肺がん、乳がん検診の充足率が前年度を下回った場合、周知方法等について再検討する。 					
	前年度までの実績	<ul style="list-style-type: none"> ・がん検診(大腸がん、肺がん、乳がん)充足率(%) (H29) 大腸がん59.6、肺がん73.9、乳がん78.1 ・特定健康診査受診率 23.3%(H29) 					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	①(i)		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	戦略に対する取組の有効性	-	<ul style="list-style-type: none"> ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す エ:プロセス指標未設定(未測定) 				
自己評価	取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須					
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須					
	戦略に対する取組の有効性	-	<ul style="list-style-type: none"> ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す エ:プロセス指標未設定(未測定) 				

具体的取組2-4-3 【はつらつ脳活性化元気アップの推進】

		29決算額	1187千円	30予算額	1015千円	元予算額	784千円
計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)					
	<ul style="list-style-type: none"> 1)人材(リーダー)の育成 ①「はつらつ脳活性化元気アップリーダー養成講座」の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の健康、地域を元気にする意識啓発と技術取得のための講座開催(年1回、8回コース300名受講) 2)リーダー活動の拡充 ①「はつらつ脳活性化元気アップ教室」の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーが中心となり、各地域で健康づくりから認知症予防の講座開催 ・4地域包括支援センターの担当地域での講座を開催し、地域住民の交流の輪を広げ、顔が見える関係づくりを行う。 ②多世代交流の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーが認知症に扮し、「認知症キッズサポーター養成講座」への協力をすることにより、子どもたちの認知症への理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 1)リーダー育成数 20名 2)リーダー活動の拡充 <ul style="list-style-type: none"> ・講座参加者の満足度 60%以上 <p>【撤退・再構築基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1)10名以下の場合は、事業を再構築する。 2)リーダー活動の拡充。講座参加者の満足度30%以下の場合、事業を再構築する。 					
	前年度までの実績	<ul style="list-style-type: none"> ◎はつらつ脳活性化元気アップリーダー養成講座 <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーとして活動している人は105名 ◎はつらつ脳活性化元気アップ教室(H26.5から毎年開催) ◎認知症キッズサポーター養成講座 <ul style="list-style-type: none"> ・北田辺小学校、湯里小学校での声かけ体験型講座に協力 					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	①(i)		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	戦略に対する取組の有効性	-	<ul style="list-style-type: none"> ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す エ:プロセス指標未設定(未測定) 				
自己評価	取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須					
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須					
	戦略に対する取組の有効性	-	<ul style="list-style-type: none"> ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す エ:プロセス指標未設定(未測定) 				

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題3

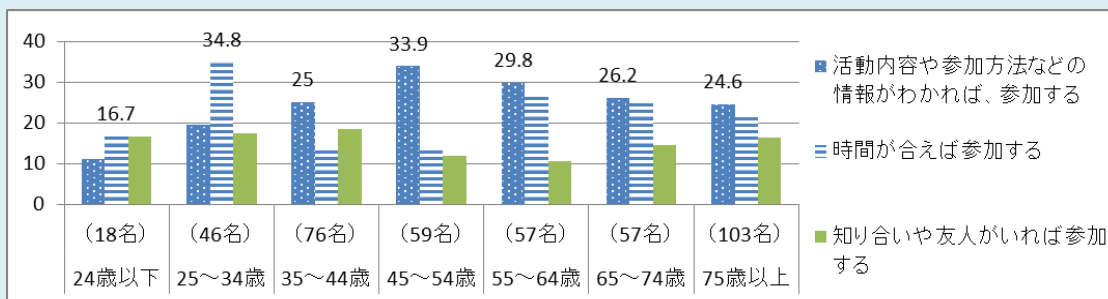
【みんながつながるまちづくりの推進】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年を念頭に設定＞

多様化・複雑化する地域課題の解決を図るべく、住民や地域団体、企業、NPO等様々な団体や幅広い年代の区民がまちに愛着と関心を持ち、つながりあうことで、豊かなコミュニティが醸成され、自らの地域のことは自らの地域が決めるという意識のもと、相互に理解し信頼しあいながら協働するまちになる。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

- ・地域活動に参加したことがある区民の割合 23.3%（平成29年度 区民アンケート）
- ・（地域活動に参加していない区民を対象に）地域活動に参加していない理由（ " ）
 - 「時間の都合などにより参加できていない」区民の割合 23.3%
 - 「参加方法がわからない」区民の割合 7.2%
 - 「どんな活動をしているかわからないから」区民の割合 15.4%



- 【福祉】・平成27年と平成12年の東住吉区の高齢者の人口を比較すると、前期高齢者約1.1倍、後期高齢者約1.7倍に増。平成27年と平成12年の高齢夫婦世帯数・高齢単身世帯数を比較すると高齢夫婦世帯約1.1倍、高齢単身世帯約1.5倍に増。
- ・日常生活で困ったとき、何らかの助けを望んでいる区民の割合 56.2%（東住吉区内での交流・ボランティア活動に関する調査（H26.7実施））
- ・有償でも無償でもどちらでもよいのでボランティアに助けてほしいと思う区民の割合 45.4%（ " ）
- ・有償による助け合い活動「とんずみサポート」の認知度13.2%（平成30年度第1回区民アンケート）

要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

- ・地域活動に参加する区民を増やすには、どの年代においても「活動内容や参加方法などの情報がわかれば参加する」という区民をいかに取り込むことができるかにかかっており、同区民を取り込むことにより、地域活動に参加する区民が5割近くに達することから、地域活動に参加してもいいと考えている区民の手元にいかに情報が届けられるかが喫緊の課題である。
- ・後期高齢者の増加に伴い、医療と介護ニーズを併せ持つ高齢者、重度の要介護認定者、ひとり暮らし高齢者、認知症高齢者などが増加すると見込まれる。
- ・「支え手」となる生産年齢（15～64歳まで）人口は減少し、核家族化の進行や、ひとり暮らし高齢者や夫婦のみ高齢者世帯の増加により、家族や親族が支え合う機能が希薄化し、地域の支え合いの機能も低下していくことが予測される。
- ・日常生活での“困りごと”に対し、何らかの手助けを必要としている人が多数いる。
- ・日常生活で“困っていること”を解消する仕組みを構築したが、認知度がまだまだ低い。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

- ・多様化し、複雑化する地域課題を解決し、まちの活力・魅力を向上させるためには、行政だけでなく、より多くの区民や様々な活動主体のまちづくり活動への参画が欠かせず、まちへの関心・愛着を高め、まちづくり活動への参画を促すべく、地域活動に関する効果的な発信や交流の場の提供等を行う。
- ・高齢者ができる限り住み慣れた地域で、その有する能力に応じて自立した日常生活を安心して営むことができるよう、身近なところで気兼ねなく相談でき、必要な支援に的確につながる仕組みを確立していく。
- ・高齢期は、介護を必要とする人がいる一方で、趣味や社会活動への参加など、自らの価値観に従って能動的・主体的な生活を送る時期でもある。このため、介護が必要な方は重度化を防止し、健康な人は要介護状態になることを予防する取組みを進める必要がある。
- ・身近なところで気兼ねなく相談でき、必要な支援に的確につながるしくみを確立していくことが求められる。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

評価

めざす成果及び戦略 3-1 【東住吉つながりプログラムの充実】

計画	めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定>	戦略（中期的な取組の方向性）
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）	

中期評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体	
	戦略の進捗状況	a: 順調 b: 順調でない	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
	A: 順調 B: 順調でない		

具体的取組 3-1-1 【区民相互の交流活動へのサポート】

29決算額 6,790千円 30予算額 6,673千円 元予算額 6,673千円

計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）
	様々な地域団体や企業等の参画のもと地域ニーズに対応した手法で事業を実施し、区民相互の交流活動をサポートする。	①参加者アンケートで「次も参加したい」と答えた割合:60%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が40%を下回った場合は、事業を再構築する。

中期評価	プロセス指標の達成状況	①(x)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	-	

中期評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況	
	戦略に対する取組の有効性	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	A: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す 一: プロセス指標未設定(未測定)	

具体的取組3-1-2 【あらゆる世代が参加する生涯学習活動の推進】

		29決算額	4,002千円	30予算額	3,518千円	元予算額	3,418千円
計画	当年度の取組内容			プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）			
	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代も参加しやすくなるよう、一時保育付や子ども・親子向けの区主催生涯学習講座を実施 区内の生涯学習関連施設が持つ特性を活用した、次世代を担う子どもたちの学びやまちづくり活動に関わるきっかけづくりイベント（のびのびワクワク体験広場）を実施（11月） 区民が専門的な知識を学び幅広い学習ができるよう、区内大学等と共催で講座を実施（8月） 生涯スポーツの振興に資するため、区内の市立小・中学校の体育施設を学校教育に支障のない範囲で地域に開放（20校） 			①区主催の講座において「次も参加したい」と答えた参加者の割合：70%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が50%を下回った場合は、事業を再構築する。			
中間振り返り	プロセス指標の達成状況			①(i)			
	①：目標達成（見込）(i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）(i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成						
戦略に対する取組の有効性			-	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）			
自己評価	当年度の取組実績			課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	プロセス指標の達成状況			改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性			-	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）		

具体的取組3-1-3 【子育て支援の推進】（再掲）

		29決算額	12,119千円	30予算額	11,856千円	元予算額	15,007千円
計画	当年度の取組内容			プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）			
	<ul style="list-style-type: none"> 東住吉区子育て支援連絡会との協働による子育て施策の展開及び情報提供を行う。 東住吉区子育てOHえんフェスタの開催（年1回） 東住吉区子育てファミリー運動会（年1回） 赤ちゃんも一緒クラシックコンサート（年2回） OHえん情報誌の作成・配布（毎月） 保存版の作成年間 約1,500部 区内幼稚園・保育園・保育所・認定こども園・小規模保育施設・小学校の職員との学習会 乳幼児健診時に子育てOHえん情報誌保存版の配布や区社協配信のOHえんメールの周知などタイムリーな情報提供を行い、サービスの利用を促進。 子育て相談・訪問によるサービス 利用者支援専門員等による保育所資源やサービスの利用に関する相談・情報提供の拡充 3名の家庭児童相談員による養育者への相談体制の充実と虐待の予防と早期発見のための取組の強化 家庭での保育が一時的に困難になった乳幼児に対する、保育所等の実施施設における日中一時預かり（3ヶ所） 地域親子サロンを活用した地域妊産婦教室の開催 			東住吉区子育てOHえんフェスタやファミリー運動会、赤ちゃんコンサート（年2回）の開催時に実施するアンケート調査による満足度：85%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が50%を下回った場合は、事業を再構築する。			
中間振り返り	プロセス指標の達成状況			①(i)			
	①：目標達成（見込）(i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）(i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成						
戦略に対する取組の有効性			ア	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）			
自己評価	当年度の取組実績			課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	プロセス指標の達成状況			改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性			ア	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）		

具体的取組3-1-4 【地域福祉における区民相互の助け合いへの支援】

29決算額 19,253千円 30予算額 11,630千円 元予算額 26,190千円

計画	<p>当年度の取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暮らしにおけるちょっとした困りごとについて、地域で気軽に支えあう、有償による助け合い活動「とんずみサポート」の周知・推進 ・地域住民のボランティア活動への参加促進に資する普及啓発 ・地域におけるボランティア活動のきっかけとなる交流(体験型の講座等) ・高齢者の健康増進と孤独感の解消、地域社会との交流を目的に、ボランティアが在宅のひとり暮らし高齢者や寝たきり高齢者等に、地域施設での会食等の世話を実施(14地域、総事業費の1/2補助) ・地域における平時の見守りと災害時の避難支援への備えを強化するため、「要援護者名簿」の更新、活用。 ・認知症高齢者等徘徊者の保護のため、行方不明者情報を協力者にメール配信するシステムの活用。 	<p>プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①協力会員の登録数を前年度比で10%増 ②東住吉区ボランティア・市民活動センターのボランティア(無償)の新規登録者増加率:9%以上 ③高齢者食事サービスの利用者アンケートで「満足している」と答えた参加者の割合:70%以上 <p>【撤退・再構築基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①が前年度比10%増未滿、②が9%未滿、③が60%以下の場合は、事業を再構築する
	<p>前年度までの実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有償による助け合い活動「とんずみサポート」を運用 ・ボランティア活動への参加促進に関する啓発・研修を実施 ・高齢者食事サービスの実施(14地域) ・高齢者、障がい者(身体・精神・知的)を対象に「要援護者名簿」の作成及び活用 ・認知症高齢者等徘徊者を保護するシステムを運用 	

中間振り返り	<p>プロセス指標の達成状況</p> <p>②(x)</p>	<p>課題と改善策</p> <p>※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>とんずみサポートの協力会員数増が現状では未達成見込みであるため、区社会福祉協議会へ更なる周知を図り協力会員増加になるよう働きかけを行う。</p>
	<p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>-</p> <p>ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)</p>	

自己評価	<p>当年度の取組実績</p>	<p>課題</p> <p>※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>
	<p>プロセス指標の達成状況</p>	<p>改善策</p> <p>※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>
	<p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>-</p> <p>ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)</p>	

具体的取組3-1-5 【はつらつ脳活性化元気アップの推進】(再掲)

29決算額 1,187千円 30予算額 1,015千円 元予算額 784千円

計画	<p>当年度の取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 1)人材(リーダー)の育成 ①「はつらつ脳活性化元気アップリーダー養成講座」の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の健康、地域を元気にする意識啓発と技術取得のための講座開催(年1回、8回コース300名受講) 2)リーダー活動の拡充 ①「はつらつ脳活性化元気アップ教室」の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーが中心となり、各地域で健康づくりから認知症予防の講座開催 ・4地域包括支援センターの担当地域での講座を開催し、地域住民の交流の輪を広げ、顔が見える関係づくりを行う。 ②多世代交流の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーが認知症に扮し、「認知症キッズサポーター養成講座」への協力をすることにより、子どもたちの認知症への理解を深める。 	<p>プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1)リーダー育成数 20名 2)リーダー活動の拡充 <ul style="list-style-type: none"> ・講座参加者の満足度 60%以上 <p>【撤退・再構築基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1)10名以下の場合は、事業を再構築する。 2)リーダー活動の拡充 ①の満足度30%以下の場合、事業を再構築する。
	<p>前年度までの実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎はつらつ脳活性化元気アップリーダー養成講座 <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーとして活動している人は105名 ◎はつらつ脳活性化元気アップ教室(H26.5から毎年開催) ◎認知症キッズサポーター養成講座 <ul style="list-style-type: none"> 北田辺小学校、湯里小学校での声かけ体験型講座に協力 	

中間振り返り	<p>プロセス指標の達成状況</p> <p>①(x)</p>	<p>課題と改善策</p> <p>※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>
	<p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>-</p> <p>ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)</p>	

自己評価	<p>取組実績</p>	<p>課題</p> <p>※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>
	<p>プロセス指標の達成状況</p>	<p>改善策</p> <p>※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>
	<p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>-</p> <p>ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)</p>	

めざす成果及び戦略 3-2 【自律的な地域社会の支援】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定>		戦略（中期的な取組の方向性）	
	小学校区を単位とした14地域において、民主的で開かれた組織運営と会計の透明性を確保しながら、様々な活動主体が参画して地域のまちづくり活動を行う地域活動協議会が、自律的・継続的に地域運営を進めている。 アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） ・校区等地域において、さまざまな団体が集まって、地域の活動や地域課題について話し合うことが活発になっていると感じている区民の割合：令和2年度に50%以上		・地域活動の核となる地域活動協議会について、地域ごとに特性のあるまちづくり活動を自主的に運営することができるよう、地域の実情やニーズにあった支援を行う。具体的には、自律的で継続的な運営を行うため、地域資源を活かしながら、自主財源の創出や確保に取り組んでいく。また、先進的な取り組みを行う地域、地域活動が活性化している地域をモデルとし、重点的に支援を行いステップアップを図る。 ・区民の関心を高めるため、地域活動協議会等により行われている地域の自主的なまちづくり活動に関する情報発信を強化するとともに、まちづくり活動に参加しやすい環境を整える。	
中期評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須	
			A：順調 B：順調でない	
	戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない		

具体的取組 3-2-1 【地域の自主的なまちづくり活動への支援】

		29決算額	41,755 円	30予算額	37,430千 円	元予算額	37,570千 円
計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）				
	・地域活動協議会への補助金にかかる活動内容、申請額・交付額・精算額の、区ホームページでの公表 ・地域のまちづくりについて専門的知識のある事業者（中間支援組織）による地域活動協議会への支援 地域の実情やニーズに合わせた広報等の実施 地域の担い手の知識・技術の習得・向上の促進策の実施 新たな地域活動の担い手の発掘、連携やスキルの継承 等 ・他地域との情報交換の場の設定 等 ・地域活動協議会への連絡会議の開催(11回)		「地域活動協議会」を知っている区民の割合：41%以上 【撤退基準】 「地域活動協議会」を知っている区民の割合が30%の場合は事業を再構築する。 前年度までの実績 ・地域活動協議会の活動内容や補助金等を区ホームページで公表。 ・中間支援組織による、地域への個別訪問相談支援の実施。 ・地域活動協議会への連絡会議の開催(11回)				
中期評価	プロセス指標の達成状況	①(i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	戦略に対する取組の有効性	-	①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成 ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す 一：プロセス指標未設定(未測定)				
中期評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性		ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す 一：プロセス指標未設定(未測定)				

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題4

【まちづくりの推進に向けた情報資産の共有化】

計 画	<p>めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間を念頭に設定＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 各地域で必要な資源、さまざまな活動主体の情報をつかみ、紙や電子媒体で、区職員がまちのセールスマンとして積極的に情報発信する。 地域内や他地域の情報を区民が主体的に知ることができる環境にある。
	<p>現状（課題設定の根拠となる現状・データ）</p> <ul style="list-style-type: none"> 区への取組に関する情報伝達（H26・27・28・29「各区に共通する区政運営に関する事項についてのアンケート調査結果」） 肯定的意見 H26 29.2%（市平均32.6%）→H29 38.6%（市平均41.8%） 区役所の取組情報の入手先（平成27年第1回区民アンケート） <ul style="list-style-type: none"> 広報紙 58.4%（うち44歳以下43.8%、45歳以上62.7%） 口コミ 16.8%（うち " 22.9%、 " 15.1%） 掲示板 11.7%（うち " 14.6%、 " 10.8%） 広報紙を気軽に手にとる方法（平成26年第1回区民アンケート） もっと手に取りやすい場所に置く33.6%（うち44歳以下50.0%、45歳以上29.5%） 区の広報紙の入手方法（平成28年第1回区民アンケート） <ul style="list-style-type: none"> 新聞折込 47.0%（うち44歳以下24.4%、45歳以上54.7%） 自宅送付 16.6%（うち " 22.8%、 " 14.5%） 広報サポーター・駅 8.2%（うち " 7.1%、 " 8.6%） 未入手 25.8%（うち " 44.9%、 " 19.3%） 広報紙を読んだことがある割合（平成29年第1回区民アンケート） <ul style="list-style-type: none"> 毎月読んでいる 25.5%（うち44歳以下10.0%、45歳以上31.0%） 毎月ではないが読んだことはある 42.1%（うち " 31.3%、 " 44.5%） 子育てコーナーの新設、広報紙のレイアウト変更について（平成29年第1回区民アンケート） <ul style="list-style-type: none"> 読みやすい、読みやすくなった（24.8%）、読みにくい、読みにくくなった（1.9%）、あまり変わらない、わからない（65.8%） ※44歳以下の子育て世帯の「読みやすい、読みやすくなった」割合（34.8%） 広報紙を除くSNSやTV・新聞などの積極的な情報発信の方法について（平成29年第1回区民アンケート） <ul style="list-style-type: none"> 様々な媒体から情報を入手しやすく、情報発信の方法が工夫されている 25.5%（うち44歳以下34.4%、45歳以上21.7%） 全体的に発信や情報はまだまだ少ないが、情報発信の方法は工夫されている 33.5%（うち " 40.3%、 " 29.6%） 情報発信の方法が、工夫されているとは思わない 19.0%（うち " 21.5%、 " 18.1%） H29.4から配信開始した区の公式「LINE」の認知度（平成29年第1回区民アンケート） <ul style="list-style-type: none"> 知っており、登録している（1.1%）、知っているが、登録はしていない（7.3%）、知らない（87.5%） 子育てに役立つ情報が一つにまとまったWEBサイト「東住吉区子育て応援ナビ」の認知度（平成28年第1回区民アンケート） <ul style="list-style-type: none"> 44歳以下 知らない 80.3%
	<p>要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで、広報紙の魅力向上のため、平成25年度に区民ボランティア記者制度を立ち上げ、区民自らが取材、執筆した記事を定期的に掲載した。また、平成24年度にツイッターを開発し、区ホームページの内容を周知し誘導する取組を実施した。 しかし、依然として、区への取組に関する情報伝達に対する肯定的意見は約3割にとどまり、区政会議でも常に情報発信の強化が意見されている。 区内の情報源として、広報紙を挙げる区民はどの年代も多いものの、実際に広報紙を入手して「いない」区民は、45歳以上で約2割、44歳以下では約5割にのぼる。 また、広報紙の入手方法も購読状況も求める記事も、区役所からの情報の入手方法そのものも年代によって大きく異なる。
	<p>課題（上記要因を解消するために必要なこと）</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの人が訪れる公共の施設や駅、子育て層が利用する保育所等へ配架し、広報紙を手に取りやすい環境整備に取組む必要がある。 広報紙に関心が無い区民、特に子育て層が読む頻度を上げるためにも、子育て層の区民が手に取り読みたいと思う記事を掲載するなど、魅力ある紙面に改良する必要がある。 SNSの発達により社会情勢は大きく変わっている現状を踏まえ、年代に即した広報戦略を立てる必要があり、各種媒体の情報を相互に連携させるクロスメディア手法を用い情報の充実に取組む。その一つとして、本年4月に配信開始した「LINE」の認知度を向上させ登録数を増やすとともに、子育て応援ナビや区ホームページへ連携させるような「LINE」情報を発信する。

自 己 評 価	<p>戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括</p>
	This area is intentionally left blank for evaluation content

めざす成果及び戦略 4-1 【区政情報の広報戦略の展開】

計画	めざす状態＜概ね3～5年間で念頭に設定＞		戦略（中期的な取組の方向性）									
	<ul style="list-style-type: none"> 地域に密着した情報を収集・発信し、区の広報媒体（広報紙やホームページ等）が、区民から愛着を持たれている。 区職員一人ひとりがまちのセールスマンとして、東住吉の魅力発信を行うために必要な広報スキルや意識が身に付いている。 		<ul style="list-style-type: none"> 広報紙をより魅力的な内容とし、手に取りやすい環境を整える。 区の公式「LINE」の認知度を向上させ、紙媒体とWeb情報、SNSを相互に連携させ、子育て層に必要な情報を届ける。 区民だけではなく、区外の方に対しても区の魅力を発信し、区の認知度を上げる。 機能的かつ効果的な広報活動に関する区職員の意識を向上させ、各課の情報受発信力を強化する。 									
自己評価	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須									
	<ul style="list-style-type: none"> 区役所の情報が伝わりやすくなったと感じる区民の割合：令和2年度に60%以上 		<table border="1"> <tr> <th>アウトカム指標の達成状況</th> <th>前年度</th> <th>個別</th> <th>全体</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		アウトカム指標の達成状況	前年度	個別	全体				
	アウトカム指標の達成状況	前年度	個別	全体								
戦略のアウトカム指標に対する有効性		ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す										
戦略の進捗状況		a：順調 b：順調でない										
		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須										
		A：順調 B：順調でない										

具体的取組 4-1-1 【区の広報媒体及び内容の充実】（再掲）

		29決算額	15,809千円	30予算額	16,329千円	元予算額	20,673千円
計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）				
	<ul style="list-style-type: none"> 子育て層が見たいと思う情報の発信強化を目指した、区広報紙のリニューアル 広報紙を手に取りやすい配架場所の新規開拓（5箇所以上） 子育て層に向けた情報発信サイト「LINE」の登録者数の増加 区広報紙やホームページと、区の公式SNS（LINE、facebook、instagramなど）を連携させ、相互の情報をクロスメディア手法により効果的に発信（各媒体から相互に情報を利用することが可能） 広報板の効果的な活用 		①区広報紙がリニューアルされ、区政に対し関心が高まったと感じる割合：60% ②子育て層が、広報紙が読みやすくなったと感じる割合：40% 【撤退・再構築基準】 ①が30%及び②が20%をともに下回った場合は、事業を再構築する。				
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		前年度までの実績				
	①(i) ②(i) ③(i) ①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成		・区民ボランティア記者制度創設（区民による取材記事特集、25年4月～）。 ・ツイッターに区HPのURLを掲載し、区HPへ誘導。（24年4月～）。 ・東住吉区子育て応援ナビの開設（28年4月～）、改修（29年）。 ・子育て層に向けた情報発信サイト「LINE」の開設（29年4月）。 ・広報紙の子育てコーナー拡充、記事情報の二次元コードの積極的な活用。 ・子どもの写真掲載（30年5月～） ・区内保育園、幼稚園34箇所へ広報紙配架（広報サポーター）（30年8月～）				
自己評価	戦略に対する取組の有効性		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定(未測定)						
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成		ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定(未測定)				

めざす成果及び戦略 4-2 【地域における情報共有の促進】

計画	めざす状態＜概ね3～5年間で念頭に設定＞		戦略（中期的な取組の方向性）	
	様々な地域課題や課題解決のための取組内容等に関する情報が地域内や地域間において共有されることにより、地域内や地域間のネットワークが拡充し、東住吉全体の地域力が向上する。		様々な地域課題や課題解決のための取組内容等に関する情報を地域内や地域間で共有できる場を設ける。	
自己評価	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）			
	・校区等地域を越えたまちづくりに関する活動が、地域団体や市民、NPO、企業など様々な活動主体の連携・協働により進められていると感じている区民の割合：令和2年度に50%以上			
	・身近な地域において「声かけ」、「見守り」、「助け合い」、「支え合い」があると感じている区民の割合：令和2年度までに54.8%以上			
戦略のアウトカム指標に対する有効性		A:有効であり、継続して推進 I:有効でないため、戦略を見直す		課題 ※有効性が「I」の場合は必須
アウトカム指標の達成状況		前年度	個別	全体
		A:順調 B:順調でない		
戦略の進捗状況		a:順調 b:順調でない		
		今後の対応方向 ※有効性が「I」の場合は必須		

具体的取組4-2-1 【地域の自主的なまちづくり活動への支援】(再掲)

29決算額 41,755 円 30予算額 37,430千円 元予算額 37,570千円

計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）	
	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動協議会への補助金にかかる活動内容、申請額・交付額・精算額の、区ホームページでの公表 地域のまちづくりについて専門的知識のある事業者（中間支援組織）による地域活動協議会への支援 地域の実情やニーズに合わせた広報等の実施 地域の担い手の知識・技術の習得・向上の促進策の実施 新たな地域活動の担い手の発掘、連携やスキルの継承 等 他地域との情報交換の場の設定 等 地域活動協議会への連絡会議の開催(11回) 		「地域活動協議会」を知っている区民の割合：41%以上 【撤退基準】 「地域活動協議会」を知っている区民の割合が30%の場合は事業を再構築する。	
			前年度までの実績	
		<ul style="list-style-type: none"> 地域活動協議会の活動内容や補助金等を区ホームページで公表。 中間支援組織による、地域への個別訪問相談支援の実施。 地域活動協議会への連絡会議の開催(11回) 		

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	①(i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「I」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	-	

自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「I」がある場合は必須	
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「I」がある場合は必須	
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成			
戦略に対する取組の有効性		A:有効であり、継続して推進 I:有効でないため、取組を見直す -:プロセス指標未設定(未測定)		

具体的取組4-2-2 【地域の防災力強化(共助)】(再掲)

		29決算額	2,533千円	30予算額	1,242千円	元予算額	1,247千円
計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)					
	自主防災組織の機能強化を図る取組 ・地域の自主的、自律的な防災訓練の支援(14地域) ・地域防災リーダー防災学習の実施 ・地区防災計画の策定・改訂に向けた支援(14地域) ・地域防災活動への女性の参画促進に向けた支援 ・各小中学校の「防災・減災教育カリキュラム」に基づく防災研修・防災訓練等の支援(20校) ・事業所等に対する災害への備えと地域との連携の呼びかけ ・各地域で自主的、自律的に取り組まれている防災訓練等に関する情報の発信	有事の際にどのように行動すべきか理解している地域防災リーダーの割合:70%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が50%を下回った場合は、事業を再構築する。					
		前年度までの実績 ・地域等での防災訓練等の実施(14地域) ・地域防災リーダー・女性防火クラブ合同研修の実施(5月) ・地区防災計画策定に向けた働きかけ・策定支援(14地域) ・事業所と地域との連携(災害時協力事業所登録制度の改正・地域へ情報提供)					

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	①(i)	課題と改善策	※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
		①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成					
	戦略に対する取組の有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)				

自己評価	当年度の取組実績	課題					
		※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	プロセス指標の達成状況	改善策					
		※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)				

具体的取組4-2-3 【地域福祉における区民相互の助け合いへの支援】(再掲)

		29決算額	19,253千円	30予算額	11,630千円	元予算額	26,190千円
計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)					
	・くらしにおけるちょっとした困りごとについて、地域で気軽に支えあう、有償による助け合い活動「とんずみサポート」の周知・推進 ・地域住民のボランティア活動への参加促進に資する普及啓発 ・地域におけるボランティア活動のきっかけとなる交流(体験型の講座等) ・高齢者の健康増進と孤独感の解消、地域社会との交流を目的に、ボランティアが在宅のひとり暮らし高齢者や寝たきり高齢者等に、地域施設での会食等の世話を実施(14地域、総事業費の1/2補助)。 ・地域における平時の見守りと災害時の避難支援への備えを強化するため、「要援護者名簿」の更新、活用。 ・認知症高齢者等徘徊者の保護のため、行方不明者情報を協力者にメール配信するシステムの活用。	①協会の登録数を前年度比で10%増 ②東住吉区ボランティア・市民活動センターのボランティア(無償)の新規登録者増加率:9%以上 ③高齢者食事サービスの利用者アンケートで「満足している」と答えた参加者の割合:70%以上 【撤退・再構築基準】 ①が前年度比10%増未満、②が9%未満、③が60%以下の場合は、事業を再構築する					
		前年度までの実績 ・有償による助け合い活動「とんずみサポート」を運用 ・ボランティア活動への参加促進に関する啓発・研修を実施 ・高齢者食事サービスの実施(14地域) ・高齢者、障がい者(身体・精神・知的)を対象に「要援護者名簿」の作成及び活用 ・認知症高齢者等徘徊者を保護するシステムを運用					

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	①(i)	課題と改善策	※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
		①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成					
	戦略に対する取組の有効性	-	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)				

自己評価	当年度の取組実績	課題					
		※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	プロセス指標の達成状況	改善策					
		※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)				

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題5

【区民と共に創るまちづくりの推進】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間を念頭に設定＞

- ・区民の意見・要望・提言の聴取に努め、区の特長や地域実情に即した区政が運営される区民主体の自治を実現できている。
- ・身近な総合行政の拠点として区民から信頼される区役所をめざす。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

●区政会議委員アンケート

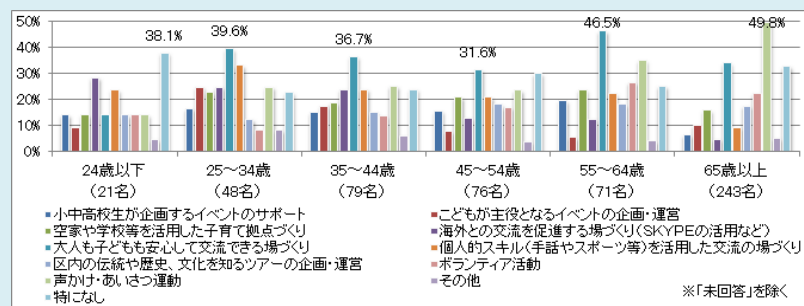
- ①区政会議において、各委員からの意見や要望、評価について、十分に意見交換が行われていると感じている委員の割合（29年度 目標60%）
- ②区政会議において、各委員からの意見や要望、評価について、適切なフィードバックが行われていると感じている委員の割合（29年度 目標60%）

①	肯定的意見	思う	やや思う	あまり思わない	思わない	②	肯定的意見	思う	やや思う	あまり思わない	思わない
	東住吉区	94.4%	33.3%	61.1%	5.6%		0.0%	東住吉区	100.0%	18.8%	81.3%
24区平均	72.7%	25.7%	47.0%	24.6%	2.7%	24区平均	69.4%	17.2%	52.2%	27.7%	2.9%

●区民アンケートの年代別の有効回収率（平成30年第1回区民アンケート）

	24歳以下	25～34歳	35～44歳	45～54歳	55～65歳	65歳以上	合計
① 配付件数	128	231	222	288	219	412	1500
② 有効回収数	27	64	75	83	97	235	581
③ 有効回収率(②/①)	21%	28%	34%	29%	44%	57%	39%
④ Web回収数	9	11	10	12	6	3	51
⑤ Web回収率(④/②)	33%	17%	13%	14%	6%	1%	9%

●子どもたちの未来のために他の人と一緒にやってもいいと思うこと（平成28年第2回区民アンケート）



要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

- ・区政運営について、計画段階から区民との対話や協働により進められるとともに、多様な区民による評価がなされる場である区政会議は、多種多様な経歴や数々の実績を有する委員（公募を含む）から成り立っており、同会議での議論も活発になされているが、同会議の認知度はまだまだ低く、委員以外の区民と共有できているという状況とはいえない。
- ・区民アンケート制度では、若年層の回答率が他の年代と比較して低いことから、平成28年度からWEBでも回答できるようにし、回答率は向上しているが、十分とは言えない状況にある。
- ・「子どもたちの未来のために、あなた自身が他の人と一緒にやってもいいと思うこと」を区民アンケートで伺うと、約65%の区民が「何か」を一緒にやってもいいと考えていることが分かった。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

- ・物理的に広報紙を届けるために、今後、より積極的に区として、年代に応じた入手先の開拓を行う必要がある。
- ・広報紙に関心が無い区民、特に子育て層が読む頻度を上げるためにも、子育て層の区民が手に取り読みたいと思う記事を掲載するなど、魅力ある紙面に改良する必要がある。
- ・SNSの発達により社会情勢は大きく変わっている現状を踏まえ、年代に即した広報戦略を立てる必要があり、各種媒体の情報を相互に連携させるクロスメディア手法を用い情報の充実に取り組む。その一つとして、本年4月に配信開始した「LINE」の認知度を向上させ登録数を増やすとともに、子育て応援ナビや区ホームページへ連携させるような「LINE」情報を発信する。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

評価

めざす成果及び戦略 5-1 【区民の意見を反映した区政運営の実現】

計画	めざす状態＜概ね3～5年間を念頭に設定＞		戦略（中期的な取組の方向性）	
	<ul style="list-style-type: none"> 区民の区政への関心を高め、区民の意見を反映した区政運営を行う。 区民が主役となるまちづくり活動が活発なまちになる。 		<ul style="list-style-type: none"> 区政会議での取組の認知度を高める。 新・東住吉区将来ビジョンの実現に向けた、新たな区民参画型のしくみを構築する。 区民ニーズを的確に把握できる仕組みを構築する。 	
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）			
	アンケート等により区民の意見を把握し、区政運営の改善につなげていると思う区民の割合：令和2年度に60%以上			
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度	個別 全体	
				今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
		A：順調 B：順調でない		
	戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない		

具体的取組5-1-1 【区民等の参画と協働による区政運営】(再掲)

		29決算額	1362千円	30予算額	575千円	元予算額	599千円
計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）				
	<ul style="list-style-type: none"> 区政会議の開催(本会議3回、2部会各2回) 広報媒体を活用した区政会議の意義や議事内容の区民への周知 新・東住吉区将来ビジョンの実現に向けた、区民が主役となるまちづくりプロジェクト(e-sumiなでしこ)のサポート(月1回) 大阪城南女子短期大学との包括連携会議(1回) 大学や企業等と連携した取組の促進 		プロジェクトに参加した区民等の中で、区民が主体的に企画に取り組み、区役所は適切にサポートしてくれていると感じる参加者の割合：60%以上【撤退・再構築基準】 上記目標が30%を下回った場合、事業を再構築する。				
計画			前年度までの実績				
			・区政会議 H25：本会議2回、3部会各3回開催 H26：本会議4回、2部会各3回開催 H27：本会議3回、2部会各2回開催 H28：本会議4回開催 H29：本会議3回、2部会各2回開催予定 ・新将来ビジョン策定(H28) ・大阪城南女子短期大学との包括連携協定の締結(H28.1)及び包括連携会議の開催(H28.6)(H29.7) ・大阪市立大学との事業連携の協議の実施(H28.10) ・企業等との連携(吉本興業・大阪シティ信用金庫)				
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	①(i)		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
		①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成					
	戦略に対する取組の有効性	-		ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す -：プロセス指標未設定(未測定)			
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
			①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成				
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す -：プロセス指標未設定(未測定)					

具体的取組5-1-2 【アンケートの充実】(再掲)

29決算額 3,773千円 30予算額 2,100千円 元予算額 1,967千円

計画	当年度の取組内容		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)
	・無作為抽出した区民1,500名に対するアンケート調査の実施 (3回のうち1回は子育て層向けアンケート(1,800名を対象)として実施、市民局実施分以外はWEBでの回答も可) ・オンラインアンケートの活用		・アンケート調査の有効回収数 1回あたり 400名以上 【撤退・再構築基準】 有効回収数がすべての回で300名を下回る場合は、事業を再構築する。 前年度までの実績 ・無作為抽出した区民1,500名に対するアンケート(2回) ・子育て層向けアンケートの実施(子育て層1,800名を抽出し実施)(1回) ・企業・事業所アンケート(H28.3)
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	①(i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	-	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	-	

具体的取組5-1-3 【区の相談・調整機能の充実】

29決算額 1,428千円 30予算額 1,215千円 元予算額 1,119千円

計画	当年度の取組内容		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)
	区役所において、区民から相談や要望を受け付け、局、事業所などと連携し、迅速かつ適切に対応する。 ・市民の声:随時 ・法律相談(弁護士):月4回 ・法律相談(司法書士):月2回 ・税務・行政・不動産・就労相談:月1回 ・相続遺言帰化相談(行政書士):月1回 ・若者・女性の就労等トータルサポート事業:月1回 ・行政連絡調整会議及び行政連絡調整会議小会議の開催(隔月) 職員の対応力の向上に向けたスキルアップ研修の実施 (区政編 改革の柱2 IV-A①) 「東住吉おもてなしプロジェクト」を継続実施し、各課を横断した全職員の意識向上の取組を推進		過去1年間に、区役所に日常生活に関する相談や要望を行った区民のうち、区役所が区における市政の総合窓口として適切に対応したと思う区民の割合:76%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が60%を下回る場合は、事業を再構築する。 前年度までの実績 市民の声(29年度162件)、法律相談(弁護士):月4回、法律相談(司法書士):月2回、税務・行政・不動産・就労相談:月1回、相続遺言帰化相談(行政書士):月1回。 行政連絡調整会議及び行政連絡調整会議小会議(各6回) 庁舎周辺清掃の実施【毎週水曜日、年1回秋頃(大阪マラソンクリーンアップ大作戦)】 (区役所職員の対応力向上に向けたスキルアップ研修(全6回) タウンウォッチング研修(全2回)
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	①(i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	-	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	-	